

会 議 録

会議の名称	第18期東村山市社会教育委員会議（第8回）				
開催日時	平成22年3月23日（火）午後7時00分～9時				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>出席者： （委員）桑原・小山・島崎・土田・當間・橋本・森・吉井・吉満 敬称略</p> <p>（市事務局）社会教育課長 神山・生涯学習係長 半井・生涯学習係主 事 野崎</p> <p>欠席者：（委員）神谷 敬称略</p>				
傍聴の可否	傍聴可 能	傍聴不 可の場 合はそ の理由	/	傍聴者 数	なし
会議次第	<p>1．あいさつ</p> <p>2．報告事項 （1）東京都市町村社会教育委員連絡協議会（以下、都市社連協とい う）第2回理事会について</p> <p>3．協議事項 （1）今期研究テーマについて</p> <p>4．その他 （1）第10回会議日程について （2）平成22年度都市社連協定期総会について</p>				
問い合わせ先	<p>教育部社会教育課生涯学習係 担当者名 半井・野崎 電話番号 042-393-5111（内線3513） ファックス番号 042-397-5431</p>				
会 議 経 過					
<p>1．あいさつ</p> <p>議長 本日は、今年度最後の会議となる。そろそろ今期研究テーマの足がかり をつかんでいきたい。</p> <p>神山課長 平成21年度の世界教育関連事業が、3月13日（土）に開催された青 少年対策地区連絡協議会（以下、青少対という）主催のスーパードッジボ ール大会をもって全て終了した。特に事故もなく年間の事業を無事に終え ることができた。皆様にもご協力いただき感謝したい。</p>					

2. 報告事項

(1) 都市社連協第2回理事会(3月19日(金)開催)について

議長

4月17日(土)に東久留米市にて定期総会が開催されるのに先がけて事前打合せを行った。21年度収支決算報告、22年度事業計画について説明があった。定期総会では22年度交流大会、関東甲信越静研究大会の日程も発表されるので、各委員に出席していただき、事前にスケジュールの調整をしていただきたい。

3. 協議事項

(1) 今期研究テーマについて

議長

これまで、市内で開催された社会教育関連行事に足を運んでいただいたので、報告があれば伺いたい。それをヒントに「質問シート」を作成していきたい。まず、直近の3月13日(土)に開催されたスーパードッジボール大会についての報告を伺いたい。

A委員

スーパードッジボール大会をきっかけに学校のクラスの団結力が強まる傾向が見受けられた。但し、年度末はクラス編成などで学校業務が忙しい時期であることと、風邪が流行しやすい時期でもあることから5月もしくは6月頃開催したほうがよいのではないかと。

B委員

確かに5、6月は青少対主催の行事が少ないが、総会や委員交代の時期と重なってしまう。

C委員

今回、会場の混雑を避けるため、監督以外の保護者の来場を2名に制限した。今後、地区ごとの予選を経て全体大会に持っていければ会場の混雑が緩和されるのではないかと。全体的な雰囲気として、参加していた子どもたちがいきいきしていた。メンバーが互いに助け合っているチームが際立っていた。

D委員

大会に学校はどのように関わっているのか。

A委員

大会に関わる保護者と学校の連携が自然にとれてきていると思う。16年続いている行事なので、自然に協力体制が作れてきたのではないかと。

C委員

毎年、多くの保護者が大会に関心を持ち、多方面で関わっている。ドッジボール大会に関わっている保護者を他の事業にも取り込みたいという動きがあった。

B委員

地域で行われている野球やサッカーなどのスポーツでも、練習や試合に協力している保護者が増えてきているようである。

E 委員

スポーツ以外の分野でも、子どもが活躍することにより保護者も自然に引き込める傾向を作っていけば、事業の活性化につながるのではないか。

議長

各学校で開講されている土曜講座についてはどうか。

C 委員

講座を指導する講師の高齢化が進んでいるが、講座に参加した児童や地域の若い世代が引き継ぐことによって後世を育むことにつながると思う。当市では、学校に完全週休二日制が導入された年から児童が土曜日を充実して過ごせるように土曜講座が展開されている。このように先進的な事業を実施しているにもかかわらず、PRが十分に行き届いていないように思われる。

事務局

地域のサークル等が、学校施設コミュニティ開放を利用するにあたり、「学校等の求めに応じ、学校・地域活動に貢献できること」を条件としている。活動の一環として土曜講座の講師を引き受けている団体もあり、それがきっかけで学校と新たな接点が生まれるといった効果もある。

F 委員

市内の小・中学校と地域が、様々な面で関わっているのが大分見受けられるようになってきたが、市内の高校とも関わるようになっていけばよいのではないか。

事務局

地区によっては、青少対主催の子ども祭りに関わっていただいている。文化協会主催の第20回東村山市民文化のつどいにも市内の都立高校の生徒が参加する予定である。また、東村山西高校校長に青少年問題協議会委員を委嘱している。

G 委員

毎年開催している緑の祭典に市内の高校の吹奏楽部が参加したり、生徒のボランティアが会場の整備等を行ったりしている。

議長

地元の教育財産を活用しないのはもったいない。高校生にも素晴らしい技術を持った人がたくさんいる。意図的にその力を引っ張り込まないと地域に広まらないだろう。

D 委員

大人から地域の青少年に仕込みを十分にしていけることが必要である。大人がルールを敷かないと青少年が自発的に動けない傾向がある。

議長

文化方面で実績を挙げたり、地域に貢献したりしている人を幅広く紹介するような動きが活発化するとよいのではないか。

D 委員

表彰や発表の場がまとまっていないので、市民に伝わりにくいのではないか。広報の手段に工夫が必要だと思う。

議長

放課後子ども教室の運営委員として当事業に関わっているので、21年度に参加した児童とその保護者およびスタッフを対象に行ったアンケートの結果について報告させていただく。参加した児童の約7割が参加して楽しかったと感じており、約9割が当事業の必要性を感じていた。家庭でも、児童が教室の中で経験した遊びについて話題になることが多いようである。保護者の6割が、子どもの居場所として当事業が必要であると答えており、3割が、当事業があるとありがたいと答えた。スタッフも、子どもたちに安全な居場所を提供できること、かつ参加した子どもたちがいきいきとしていたことが当事業の利点だと感じているようである。参加者側、スタッフ側の双方から概ね好評を得られている一方、遊び等の内容がマンネリ化しているなど課題もあるので今後の経過を見ていきたい。

今回、各委員が見聞してきた市内の社会教育関連行事について報告をいただき、それを受けて様々なご意見をいただいた。それを次回会議で集約して「質問シート」に反映させていきたい。

4. その他

(1) 第10回会議日程について

第10回会議 平成22年5月18日(火)午後7時～ 教育委員会室

全委員の承認により上記日程で開催することが決定

(2) 平成22年度都市社連協定期総会について

平成22年4月17日(土)午後1時から

於 東久留米市生涯学習センター

5. 閉会